「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 4 年 4 月 11 日

事業名称		国際交流事業費 [国際理解講座]									
予算科目	款 2	総務費	項 1	総務管理費	目 12	地域振興費	事業番号	3			
事業の種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)										
担当部署・課長名	地域振興 課 市民協働・消費（市民協働） 係					課長名	石川正憲				
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。						施策番号	5 - 4				
【施策名】 地域を越えたパートナーシップの確立						総合計画書 (ページ)	113				
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。			① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）							
	東大和市中在住・在勤・在勤の方			→ 講座定員人数							
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]			② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）							
外国文化等に触れ、国際関心と相互理解を促進する。			→ 講座参加者数								
③ そのために何をしましたか。			③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標）								
①国際理解講座開催 ②機関誌「ひがしやまのこくさいこうりゅう」発行			①開催回数 ②発行回数								
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度	成果目標				
				平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標			
	対象指標	①の数値	人	0	0	0	/				
	成果指標	②の数値	人	0	0	0					
	目標	②の目標値									
目標値設定の考え方											
行革休止事業のため、目標値は設定しない。											
活動指標	③の数値	①回 ②回	①0 ②0	①0 ②0	①0 ②0	/					
事業費（実績）		円	0	0	0						
3 経費	財源	一般財源	円	0	0	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,250,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】令和2年度決算数値（退職手当組合負担金、共済費も含む。）					
		特定財源（国・都・他）	円						0		
		（うち受益者負担）	円						0		
	人件費（目安）	所要人数(再任用以外)	人	0.2	0.0				0.0		
		所要人数(再任用)	人								
		職員人件費(再任用以外)	円	0	0				0		
職員人件費(再任用)	円										
事業費+人件費		円	0	0	0						
4 環境変化等	(1) 開始年度	不明 年度									
	(2) 環境の変化	日常生活で外国人に接する場面は増加している。 単なる国際交流ではなく互いに生活者として地域の中で密な関係を築く必要な場面も増加しており、異文化間の相互理解と寛容の重要性が増している。									

事業名称	国際交流事業費 [国際理解講座]		
担当部署・課長名	地域振興	課 市民協働・消費（市民協働）係	課長名 石川正憲

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和3年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について		
	特になし		
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）		
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない	取組手法：③ 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）	
	(2)令和4年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点 新型コロナウイルスの感染防止のため、令和3年度は開催実績無し。 稀な海外経験をした方に事業形態に合わせて協力依頼する市民協働の形態を導入する。		
7 課題	(1)令和3年度に課題とした内容（「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記） 本事業は一般のJICA派遣者に講演・レポート等を依頼しており、その内容は当人の技量に負う面が多く、事業の達成度は不安定な面がある。		
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和3年度に実施したこと。 新型コロナウイルスの流行により、JICA派遣者は渡航先から帰国している。 任国の流動的な状況に注視しながら国内勤務をしている様子から、本件について依頼をできる状況ではなかった。		
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案） 本事業は一般のJICA派遣者に講演・レポート等を依頼しており、その内容は当人の技量に負う面が多く、事業の達成度は不安定な面がある。		
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。） 施策名： 地域を越えたパートナーシップの確立 ☐ なっている ☒ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）		
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☐ 拡大 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☒ 廃止 【取組内容】		
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 本事業は行革の廃止事業に該当する。 現在の事業形態は海外への関心向上を目的にしたものであるが、現在は国際情報がインターネット等の多くの手段で発信され、容易に情報収集が可能であり内容も洗練されている。発信の機会が生じた際には社会情勢の変化等を考慮しながら実施を検討したい。		